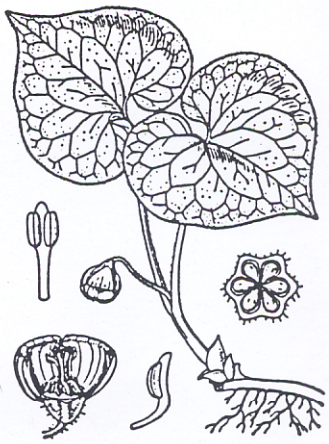
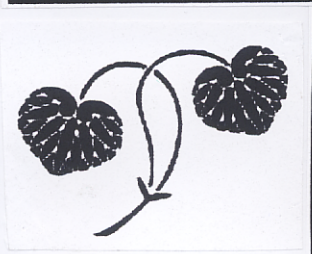
10:19
ungaro

ふたばあおい（かもあおい）　〔うまのすずくさ科〕

Asarum caulescens *Maxim.*

（＝Japonasarum caulescens *Nakai*）



山中の樹かげにはえる多年生草本．茎は多肉で平滑な円柱形，汚紫褐色，径5mm内外，地上を横たわり，長い節間と2〜3の短い節間とが交互し，下面からは細いひげ根を出す．春，茎の先端に2〜3の鱗片が互生して，扁平な芽となり，のちに芽の中から長い１本の茎がのび先端に２枚の葉が接近して互生する．葉には長い柄があり，直立し，散毛が立って生え，葉身は心臓状腎臓形，長さ4〜8cm先端は短い尾状で急に尖り，基部には半円形の両耳があって深い心臓形となり，全縁であるが長い毛が列生し，薄質である．葉間に柄のある花を１個下向きにつける．花は淡紅紫色で径1cmほど，子房下位で子房とともにがく筒の外面には巻縮毛が生える．がく筒はわん形で内部は平滑，隆起は全くない．がく片３個は無毛，強くそり返えりがく筒の外側をおおっている．花柱は合して単柱状，先端は分裂して６個の柱頭となる．おしべは12個，花糸は長く，外方へ曲がっている．〔日本名〕双葉葵は１株に必ず２葉が出るからである．また一名カモアオイは京都加茂神社の祭礼にこのアオイを用いるからついた名で　徳川家の紋章はこれにもとずいたものである．しかし葵の字をこれに用いるのはあやまりである．